



Title	ヴォルガ・ウラル地域テュルク系ムスリム家族の法社会史研究の試み：19世紀末の婚姻簿から
Author(s)	磯貝, 真澄
Citation	日本中央アジア学会報, 14, 29-31
Issue Date	2018-07-31
DOI	10.14943/jacas.14.29
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/88351">http://hdl.handle.net/2115/88351</a>
Type	article
File Information	JB014_005isogai.pdf



[Instructions for use](#)

## ヴォルガ・ウラル地域テュルク系ムスリム家族の法社会史研究の試み — 19世紀末の婚姻簿から —

磯貝 真澄

ロシア帝国のヴォルガ・ウラル地域、より正確にはオレンブルグ・ムスリム宗務協議会管轄地域の、ムスリムの教区であるマハツラでは、ムスリム聖職者であるイマームらによって、教区簿 (метрическая книга、教区簿冊) が作成された。これは出生簿、婚姻簿、離婚簿、死亡簿で構成され、そのマハツラの住民の出生、婚姻、離婚、死亡について記録したものである。本発表は、このムスリムの教区簿の史料としての特徴や利用法を確認する。特に、婚姻や離婚について、婚姻簿や離婚簿から得られる情報を法規範とあわせて分析することで、ムスリム家族の法社会史的研究が可能であることを示す。

ヴォルガ・ウラル地域のテュルク系ムスリム (現在のタタール、バシキール) 社会の研究で、村落地域に着目することの意義は、従来指摘されてきた。村落地域を対象とする社会史的研究には、モスクやマドラサ等をめぐる「イスラーム的」な社会生活を解明するもの [Frank 2001; 2012]、文書館史料、特に統計資料を用いて多くの村落の簡略な歴史を記述するもの [Асфандияров 2009]、村落地域の個別の小都市や村落の歴史を詳細に明らかにするものなどがある [Гибадуллина 2010; Миронова 2015; Салихов 2015; Махмутова 2017]。家族史研究であれば、特にバシキールを対象に、家族の形態や、婚姻、出生、死亡、遺産相続等にかかわる儀礼、習慣、規範等の研究がある [Бикбулатов и Фатыхова 1991; Асфандияров 1989; Асфандияров 1997]。だが、教区簿は、有用性がつとに語られてきた史料であるにもかかわらず、こうした先行研究でも本格的に利用されていない。本発表は教区簿、特に婚姻簿と離婚簿に記された婚姻や離婚の記録を、ロシア帝国法のムスリム家族にかかわる規定やイスラーム家族法に由来する規範と対照させて分析する手法の可能性と、それによる研究の具体的な見通しを示す。

ロシア帝国で正教徒を対象とする教区簿は1722年に法制化され、1760～1770年代に全国で作成されるようになるが、ムスリムの教区簿は1828年9月21日セナート令「オレンブルグ・マホメット教宗務行政に関する教区簿使用の実施」で法制化された [Усманова 2015: 119; 高橋 2002: 27; ПСЗ РИ. собр. 2. Т. 3: № 2296, 21.09.1828]。そして、これに基づく『ロシア帝国法

律集成』第9巻「身分法集成」第1606条が定められ、ムスリムの教区簿の作成が続けられた〔СЗ РИ 1857. Т. 9: Ст. 1606〕。教区簿は、年始までに宗務協議会がマハッラのイマームにその冊子を2部ずつ配布し、イマームが1年間の教区民の出生、婚姻、離婚、死亡について2部に同様に記載した後、1部をモスクで保存し、もう1部を宗務協議会に送付するという手続きで作成された。法文上、教区簿は出生簿、婚姻簿、死亡簿で構成され、婚姻簿に離婚も記録することになっていたが、19世紀末の実際の教区簿は、出生簿、婚姻簿、離婚簿、死亡簿という構成だった。また、イマームが教区簿を「タタール語で」記述することは、法的に保障されていた。1893～1894年に宗務協議会は、教区簿の取扱いについてより詳細な規則を定め、例えば婚姻簿に即時払いや支払期限付きの婚資の額、離婚簿に身請け離婚の際の身請けの対価の額を記載することなどを求めた〔СЦ ОМДС: 96–99 (№ 54); 107–109 (№ 60)〕。

1897年のウファ県ベレバイ郡ビクメト村(現バシコルトスタン共和国トゥイマズィ地区ビクメトヴォ村)の婚姻簿を事例とすれば〔НА РБ, Ф. И-295, Оп. 12, Д. 45: № 704, 11〕、実際に作成された婚姻簿が、たしかに身分法や宗務協議会規則に従うものだったことがわかる。例えば婚資は、その全額と即時払いの額が記載され、支払期限付き婚資に相当する残額が新郎の債務であることが明記された。こうした婚姻簿を利用すれば、初婚年齢や地域的・身分的通婚圏、婚資の額、多妻婚、新郎新婦と後見人や代理人との関係等を明らかにできる。

同様に1897年のビクメト村や、他のベレバイ郡の村落の離婚簿を事例とすれば〔НА РБ, Ф. И-295, Оп. 12, Д. 45: № 704, 21; № 697, 21; № 696, 21〕、離婚簿もたしかに身分法や宗務協議会規則に従って作成されたことがわかる。また、実際に離婚簿に記載された離婚の外形は、宗務協議会の1841年1月29日規則等で法制化された〔磯貝 2016〕、イスラーム法の規範に基づくものだったと言える。離婚簿において、離婚する夫婦の名や身分、身請け離婚の際の対価等を記載する欄には概して、記載事項の単純な列挙ではなく、離婚当事者の1人称の承認や、申込みと承諾の文言、つまり法律行為の文言が記された。これは中央アジアのシャリーア法廷で作成された証書の文面に近いスタイルである。こうした離婚簿を史料とすれば、イスラーム法における離婚で、特にどの種のものがよく行なわれたか、身請け離婚の対価が何によって支払われたかなどを解明できる。すなわち、ムスリムの教区簿を法規範とあわせて分析すれば、ムスリム家族の法社会史的な研究を進展させることが可能なのである。

## 参考文献

НА РБ, Ф. И-295: Национальный архив Республики Башкортостан (бывший Центральный государственный исторический архив РБ), Ф. И-295 (Оренбургское магометанское духовное собрание).

- ПСЗ РИ: Полное собрание законов Российской империи.
- СЗ РИ: Свод законов Российской империи.
- СЦ ОМДС: Сборник циркуляров и иных руководящих распоряжений по округу Оренбургского магометанского духовного собрания 1836 – 1903 г. Уфа: Губернская типография, 1905.
- Асфандияров, Анвар З. 1989. *Семья и брак у башкир в XVIII – первой половине XIX в.: учебное пособие*. Уфа: Башкир. ун-т.
- . 1997. *Башкирская семья в прошлом: XVIII – первая половина XIX в.* Уфа: Китап.
- . 2009. *История сел и деревень Башкортостана и сопредельных территорий*. Уфа: Китап.
- Бикбулатов, Наиль В. и Фатыхова, Флиза Ф. 1991. *Семейный быт башкир: XIX – XX вв.* М.: Наука.
- Гибдуллина, Эльза М. 2010. *Татарская община в Бугульме в XVIII – начале XX вв.* Казань: Изд-во МОиН РТ.
- Махмутова, Альта Х. 2017. *Колыбель моя, Бизяки*. Казань: Яз.
- Миронова, Елена В. 2015. *Уездный город Тетюши во второй половине XIX – начале XX века*. Казань: Институт истории им. Ш.Марджани АН РТ.
- Салихов Радик Р. 2015. *Служилая Ура: рождение татарского капитализма*. Казань: ИИ АН РТ.
- Усманова, Диляра М. 2015. “Мусульманские метрические книги в Российской империи: между законом, государством и общиной (вторая половина XIX – первая четверть XX вв.),” *Ab Imperio* 2015 № 2. С. 106 – 153. (переиздано в книге: Бобровников, Владимир О. и др. (сост.) *Мусульмане в новой имперской истории: сборник статей*. М.: Садра. 2017. С. 339 – 389.)
- Frank Allen J. 2001. *Muslim Religious Institutions in Imperial Russia: The Islamic World of Novo-uzensk District and the Kazakh Inner Horde, 1780-1910*, Brill: Leiden/ Boston/ Köln.
- . 2012. *Bukhara and the Muslims of Russia: Sufism, Education, and the Paradox of Islamic Prestige*, Brill: Leiden/ Boston.
- 磯貝真澄 2016 「19世紀後半～20世紀初頭のヴォルガ・ウラル地域のムスリムの婚姻・離婚と「イスラーム法」」、『第8回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会』、静岡県静岡市（ふしみや会議室）、2016年12月4日。
- 高橋一彦 2002 「ロシア家族法の原像——19世紀前半の法的家族」、『研究年報（神戸市外国語大学外国語研究所）』39号、1–73頁。

(京都外国語大学)